

## 日 ASEAN 特別財務大臣・中央銀行総裁会議を開催しました

日本と ASEAN の友好協力 50 周年を記念し、5 月 2 日、韓国・仁川において、日 ASEAN 財務大臣・中央銀行総裁会議を開催しました。

世界経済がパンデミックやロシアのウクライナ侵略の影響を受け、様々な不透明感が高まる中、世界の成長センターである日本と ASEAN が連携していくことは、地域はもとより世界経済の持続的な成長のために重要になっています。

こうした状況を踏まえ、本日の会議では、日本と ASEAN が共に持続的な経済成長を遂げていくために、経済・金融協力を一層強化するとともに、新たな課題に連携して対応していくことを確認しました。具体的には、①域内金融協力の深化、②金融のデジタル化への対応、③サステナブルファイナンスにおける連携、④サプライチェーンの強靱化という 4 つの政策課題について、日本と ASEAN が協力して取り組んでいく必要性について認識を共有しました。

### ① 域内金融協力の深化

- ASEAN+3 において、パンデミックや自然災害など多様化する危機に対して、加盟国を迅速に支援できるよう、新たなファシリティの創設に向けて金融セーフティネットの議論を進めていくことで一致しました。
- ASEAN+3 において、ASEAN 域内の自然災害に対する財務強靱性の向上のため、災害リスクファイナンスのイニシアティブを強化することで一致しました。
- 日 ASEAN の経済の結びつきがさらに強まる中、域内のクロスボーダー取引における現地通貨の利用促進は日本・ASEAN 双方にとって有益です。インドネシアとの間で設立している「現地通貨の利用促進に係る協力枠組み」と同様の枠組みを他の ASEAN 諸国にも拡大し、円や現地通貨の利用を推進していきます。

## ② 金融デジタル化への対応

- 金融のデジタル化が急速に進展する中、ASEAN 諸国における中央銀行デジタル通貨（CBDC）の開発やクロスボーダー決済の連携強化等が進展しています。一方、これに伴う金融システムの安定性等に対するリスクへの対応も課題です。金融デジタル化の恩恵を最大限享受するとともに、リスクを最小化すべく、日本は以下を通じて ASEAN 諸国と連携・協力していくことを表明しました。
  - IMF を通じた CBDC 関連の能力開発支援
  - AMRO のサーベイランスや技術支援の枠組構築等による金融デジタル化対応の支援
  - 金融監督等に係る当局間の連携・協力や、ADB や JICA 等を通じた技術支援

## ③ サステナブルファイナンスにおける連携

- ネットゼロ社会に向けた経済社会の脱炭素の取組みを進める上で、サステナブルファイナンスは重要な役割を持っています。日本は、以下の協力を推進することを表明しました。
  - ADB のエネルギー・トランジション・メカニズム (Energy Transition Mechanism) 等を通じた支援
  - アジアの GX 投資に関連する情報・人材・資金に係る取組みの推進（アジア地域におけるデータ充実、ASEAN における GX を推進するためのコンソーシアムの立上げ、ASEAN 地域を含む人材育成のための大学講座等の充実等）

## ④ サプライチェーンの強靱化

- サプライチェーン強靱化のため、JBIC において、2022 年 7 月に創設された「グローバル投資強化ファシリティ」や、先般の JBIC 法改正による機能強化等を活用していきます。
- 日 ASEAN 間の貿易に係るビジネス環境整備の一環として、ASEAN 諸国との間で原産地証明のデータ交換の取組みを推進します。また、ASEAN 諸国に対して、日本の税関職員を長期専門家として派遣する等、各国の実情にあわせた形の支援を行うとともに、世界税関機構（WCO）や日 ASEAN 当局間会議の枠組みも活用し、税関協力を推進していきます。

以上